

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の四ヶ国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年にあたります。

対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

その4 耶良埼灯台

耶良埼灯台は、対馬の海の玄関口である巖原港の入り口を示している灯台です。巖原港北防波堤灯台とともに、通航船の安全を見守っています。



巖原港北防波堤灯台



耶良埼灯台



耶良崎灯台は、昼間に太陽電池でバッテリーを充電し、夜間に灯台を点灯させています。灯台の光の強さは、76カンデラで、約8キロメートル先まで光が届きます。



写真左の灯台は、大正13年6月に巖原町により設置された耶良崎灯台。

昭和31年3月に現在の（写真上）灯台が設置されるまでの間、灯を点し続けていました。



写真左は、明治9年に地元問屋5軒によって耶良崎に設置された灯明台。

現在は、巖原港国際ターミナルビルの横に移設・復元されています。